

地震

あわてず行動することが安全のための第一歩。
地震直後の津波情報にも注意を向けてください。

1. 地震が起こったら

- ・机の下など、落ち着いて身の安全を確保する。
- ・揺れは1分ほど続く場合があります。慌てて外へ飛び出さないようにしましょう。

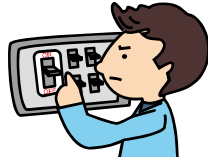


2. 揺れがおさまったら

- ・調理中であつた場合は、なるべく消火を行い身の危険が及ぶ場合は、避難してください。
- ・窓や戸を開け出口を確保する。
- ・ラジオやテレビなどで情報を確認する。

3. 避難準備

- ・ラジオなどで情報を確認しつつ、避難所へ避難しましょう。(避難所で周囲の状況を確認してから自宅へ戻りましょう。)
- ・ガラスの破片などが散らばっている場合があります。家の中を歩き回るときには気をつけましょう。
- ・ガスの元栓、ブレーカーを落として避難しましょう。



4. 避難時は、

- ・避難時は、徒歩で行いましょう
- ・細い路地や石垣などのそばを歩かない。(余震で倒壊の恐れがあります。)
- ・避難経路に沿って避難しましょう。
- ・途中近所の人にあつたら声をかけ、一緒に避難しましょう。
- ・忘れ物があつても、戻らない。



5. 避難所では、

- ・担当者の指示に従って行動してください。
- ・家族の安否確認などを行い、迎えにはいかず安全な場所を指示すること。
- ・気象庁などの情報を確認し、周囲の状況を把握する。
- ・地震や津波の場合は、時間がかかる場合があります。無理をせず安全を確かめられてから、自宅に戻りましょう。

地震から身を守るため身の回りの点検を行いましょう。

● タンスや本棚類の点検

- ・倒れたタンスなどによる大怪我や死亡が報告されています。金具などで倒れない工夫をしましょう。
- ・タンスの上に物を載せないようにしましょう。倒れやすいため非常に危険です。

● 食器棚類の点検

- ・食器やガラス製品が床一面に割れた破片が散らばります。凶器になりうるので、対策しましょう。
- ・飾り棚も同様に割れ易いものなどを固定しましょう

● 家屋や塀などの点検

- ・傷んだ場所を点検し、早めの修繕を行いましょう。
- ・石垣やブロック塀も年数がたっているものであれば修繕を行うようにしましょう。



津波

一瞬にして襲いかかる津波から身を守るためには、とにかく高台へ避難することが大切です。

1. 津波の大きさを自己判断しない。

- ・揺れがおさまったら、避難の準備と必ず地震情報を確認しましょう。
(正しい情報を元に避難の判断を。)
- ・無駄と思っても、高台への避難を始めましょう。

3. 避難に車を使わない。

- ・徒歩での避難を心がけましょう。
- ・普段から、避難経路を歩き時間や道になれておきましょう。



2. 「遠く」よりも「高く」に避難。

- ・津波注意報などが発令されたら、すぐに高台への避難を行いましょう。
- ・近くに高台がない場合は、鉄筋コンクリート3階以上の建物へ避難しましょう。

4. 津波がないという俗説を信じない。

- ・条件が合えば、津波はどこにでも発生します。
- ・遠くで発生した地震でも津波は発生します。地震、津波情報をこまめにチェックしましょう。



風水害

風水害から身を守る知識と対策。
気象情報をこまめにキャッチしてください。

台風

1. 台風が発生したら

- ・台風の進路予報をこまめにチェック。
- ・風速 10m / S 以下の場合に台風対策を行いましょう。
- ・停電や断水に備え、非常品のチェック



2. 台風が接近したら

- ・早めの避難を、台風時の避難は危険です。
- ・台風情報をチェックし、無理な外出など控えましょう。



3. 台風が通過しても...

- ・返し風が強い場合が多いので、外出は控える。
- ・台風情報をチェックしてから行動しましょう。

大雨・浸水・雷

1. 大雨から災害へ

- ・大雨注意報が出たら、冠水しやすい場所や河川などに近づかない。
- ・河川沿いに住んでいる方々は、早めに避難する。

2. 大雨が長引いたら

- ・大雨警報がでたら、外出は控えましょう。
- ・側溝の水があふれていたり、道路に水がなだれ込んでいると歩行が困難です。集団で避難しましょう。

3. 雷や土砂崩れにも注意を

- ・大気が不安定なため雷がおきやすい状態です。外出には特に気をつけてください。
- ・斜面に近寄らないようにしましょう。



避難のときは... 着の身着のままの時もありますが、時間に余裕があれば。

- 動きやすい衣類に着替える。靴も運動靴などで行動する。
- 集団で避難しましょう。できるだけ消防団や男の人と行動をしましょう。
- 水かさ、ひざ下にかかっていると大変危険です。無理せず家の高いところで避難しましょう。

災害に備える

避難生活が長期化する場合があります。
持ち出すものを日頃から決めておきましょう。

災害から自分の身と家族の安全を守るためには、①：非常用持ち出しなどの準備、②：災害が起きたときの対応、③：避難場所、避難経路、はぐれたときの集合場所などを家族で決めて事前にチェック、④：連絡網や安否確認方法を定める。などを日頃から心がけましょう。

我が家の防災チェック！

非常持ち出し品

- 飲料水
- 食料（カップ麺、缶詰、乾パン類など）
- 万能ナイフ
- 貴重品（現金、通帳、印鑑、カード類など）
- 免許証、保険証など証書類
- 家や車などの鍵
- 懐中電灯、マッチ、ライターなど
- 携帯用ラジオ、携帯電話
- 予備電池
- 救急用品（包帯、消毒、持病の薬など）
- 軍手（厚手の手袋）、ヘルメット
- 衣類品（下着、防寒着、タオル、雨ガッパ）
- 生理用品
- 乳幼児製品

- ビニールシート、ビニール袋など
- ヒモ、ガムテープなど
- ウエットティッシュ、トイレットペーパー類
- 筆記用具
- 住所録などのコピー



非常備蓄品（一人分）×3日

- 飲料水（3リットル）×3日
- 食料（缶詰、カップ麺、米など4～5食分）×3日
- 衣料（下着など2～3着分）×3日
- 水（トイレや体を拭くための水）浴槽などで確保

※ 最低3日分を自宅などに用意しておきましょう。
※ 年に一度は賞味期限などをチェックしましょう。

家族で話し合きましょう

- | | | |
|-------|---|---|
| 避難場所 | 【 | 】 |
| 集合場所 | 【 | 】 |
| 緊急連絡先 | 【 | 】 |
| 避難経路 | 【 | 】 |

※ 年に一度、新たに確認しましょう。
※ 大切な情報をメモし、日ごろから持ち歩きましょう。

緊急連絡先

災害時の連絡先 総務課 46-2001

- | | | |
|------------|---|---|
| 警察への通報 | 【 | 】 |
| 火事・救助・救急車 | 【 | 】 |
| 海の事件・事故の通報 | 【 | 】 |
| 〇〇〇 | 【 | 】 |



「災害はひとごと」と思っていないですか？

- ・災害の種類、災害の大小にかかわらず、災害はいつでも起こります。自己判断で災害を区別してはいけません。専門家でさえ予想が外れるのです。
- ・災害のシュミレーションを地区ごとや近隣のかたがたと、日頃から話し合しましょう。